

JFA Elite Programme

JFA Academy SAKAI



**JFAアカデミー堺
2012**



DREAM
SPORTS

公益財団法人 日本サッカー協会
JFAエリートプログラム



～世界のなでしこになる～

はじめに

私たちは、現代の日本であまり使用されることのない「エリート」という言葉を使っています。

私たちは、この言葉に対し、日本では強い抵抗感があると感じています。しかし、そこを取って使っているのです。

現在の抵抗感は、本来のこの言葉の持つ意味を離れたところで生じていると感じています。本来のエリートとは、決して特権階級を指すのではなく、先頭に立って社会に貢献する義務を負うリーダーを指しているのです。

また、日本の教育は戦後、大衆化、平等化の方向をとりました。これはある時期必要なことであったと思います。現在、社会的なリーダーの不在およびその育成の必要性がうたわれ始めており、国を挙げてエリート教育に取り組む国も出てきています。

ボトムアップとブルアップという言葉があります。ボトムアップとは、文字通り底上げです。ブルアップとは、エリート教育の成果を還元し、社会全体を引き上げていくという考え方です。

私たち日本サッカー協会では、2005年1月1日に、『JFA2005年宣言』をし、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を実現するために、2015年には、登録数500万人、世界でトップ10のチームになる、そして2050年までには日本でのワールドカップの開催と優勝、という明確な目標を設定しました。そしてそれは、単なる日本サッカー協会の目標としてではなく、日本全国の皆さんと双方向で交わされた約束という形で宣言されました。

そのために私たちは、ベースの水準の向上を重要視し、その方向に大いに取り組んできました。その成果はある程度あがってきたと考えています。そして今、新たに掲げた目標に向けて、さらに一歩前に進むために、ベースの向上とエリート教育の両者を共存させていく必要性を痛感しています。

最近、スポーツやその他の分野で、早期からプロ顔負けの厳しい取り組みをしている例を見ることがあります。

その活動の種類によってはそれが適切と認識されている場合もあるかもしれませんが、それに対して眉をひそめる方もいらっしゃるかと思います。その抵抗感を分析する必要があります。

私たちは、サッカーという競技の特徴を把握した上で、子どもの発達の特徴を研究し、「長期的視野に立った育成」という観点から、それぞれの年代ごとに重点的に取り組むべきこと、適した方法等について、検討を重ねてきました。サッカーについて、そしてサッカー以外の部分について、子どもの頃にこそ取り組ませたい大切なことがたくさんあるという認識に至りました。子どもは小さな大人ではありません。子どもにはそれぞれの年代で子どもに合った取り組みがあります。それを踏まえ、それぞれの年代で最適な環境・指導を与えることが重要です。

また、いわゆる「ぶつ切りの強化」、小学校、中学校、高校でそれぞれがばらばらにそれぞれの時点で完成されたチームをつくって勝とうとすることは、ともすれば、選手の長期的な育成の観点からは、弊害になる場合があります。せっかくのポテンシャルを生かしきれずに終わってしまう選手が実にたくさんいます。本来であれば皆が同じビジョン、コンセプトのもとで子どもがチームを移ろうとも長期的視野に立った育成がなされていけばいいはずです。私たちは常にそれを目指していますが、それはなかなか簡単なことではありません。そこに一貫指導の意義があります。

私たちは、若年層の育成に長年にわたり積極的に取り組んできて、若年層であればあるほど、可能性を持ったタレントが実にたくさんいることに気づきました。その子どもたちに、是非とも良い環境と機会を与え、持ち合わせた可能性を開花させることができるようにすることが重要であると感じています。

エリートに対する抵抗感のもうひとつには、選ばれなかった者の抱く差別感があると思います。

子どもは時間をかけて、さまざまな刺激を受けて、個人によりさまざまなスピードで成長していきます。若年層でたとえ選ばれなかった子どもがいても、もちろんそれで終わりではありません。それがその子が将来大成しないという判定を下すことでは決してありません。その中からも将来の日本を担う人材が育つと考えています。また、若年層で選ばれた子どもが、将来を保証されたわけでもありません。このプログラムに選ばれたからといって、全員がプロになれるわけではありません。このことは、本人も周囲の大人も、必ず理解しておいていただきたいことです。だからこそ私たちは、サッカー以外の面でも世界に通用する人材となるようなプログラムを組み込んでいこうと考えています。

また、ブルアップの考え方で、一部のレベルを上げることによって、周囲のレベル、全体のレベルを引き上げることが可能であると考えています。それによって、ベースを含めたサッカー界全体の幅と厚みが広がり、それが単に直接的な意味だけではなく、世界トップ10を目指す日本代表の活躍につながる大きな力となることを、大いに期待しています。

子どもが育っていく上で、それぞれ重要な若年層のある一時期において、良い環境と良い指導を与える機会をつくりたいと考えています。そのことを是非ともご理解いただきたいと、強く願っています。



日本におけるエリート養成システムの全体像

世界トップ10を目指して —三位一体+普及—

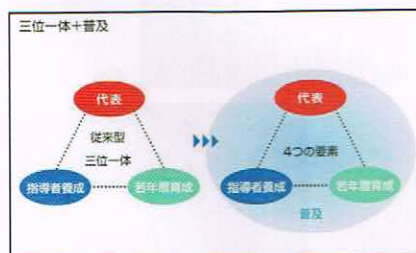
日本サッカー協会では、2002年ワールドカップ後の新スタートにあたり、「10年以内に世界トップ10を目指す」という大目標を掲げました。

それを実現するために、従来から掲げている「三位一体の強化策」に普及をプラスしました。すなわち、従来から、代表チームの強化ばかりでなくユース育成、そしてそれを指導する指導者の養成が一体となった総合力向上を目指していましたが、それだけでは不十分で、強化・育成と普及の両方を重視していくということです。普及によりしっかりとしたベースを築くことなくして、その上のトップの強化はありえないということです。

普及により、すそ野を広げ、広くて堅固なベースを基に高い山を築くことが重要です。

キッズを中心としたグラスルーツへの働きかけで生涯サッカーを愛し、楽しむ人々を増やすこと、そのことがサッカー全体を支える大きな力になると考えています。

2003年度より、「キッズプログラム」を開始しました。U-6、U-8、U-10の子どもたちに、サッカーとの良い出会いの機会を提供し、ガイドラインを提示してその年代の子どもたちにとって良い環境・良い指導を与えることを目指しています。また、レディースフットボール、ファミリーフットサル等の普及にもつとめ、日本サッカー界を大きく包んで支える力を得ています。



普及と強化・育成は、日本サッカー協会の使命です。

この両輪なくして
日本サッカーの発展はありません。

長期的視野に立った選手育成

強化・育成の観点から、長期的視野に立った育成の考え方を非常に重要視しています。子どもは小さな大人ではなく、比例して一直線上に成長していくわけでもありません。さまざまな要素がさまざまな年代に別々の速度で伸びていき、年代毎にそれぞれ個別の特徴を示しながら最終的にバランスがとれて大人になっていきます。そのため、各年代には、その時にこそ伸ばすことのできる要素があるのです。このことは育成において、非常に大きな意味を持っています。それぞれの年代の特徴に適した良い環境・指導を与えて育成することが重要であるということです。

したがって、オンザピッチ、オフザピッチ共に、低年齢から働きかけたほうが良い要素があるのです。また、低年齢のうちに取り組ませても仕方がない要素もあります。このことに留意して、それぞれの年代にやるべきことをやって最終的な成長へと導いていくことが重要です。これは日本サッカー協会の育成の非常に大きなテーマです。

真の意味でのエリート

「エリート」という言葉は日本では非常に抵抗感が強いものですが、それはこの言葉の真の意味が誤解されているためであるように思います。そして、その結果、遅れにつながっています。誤った「平等主義」により、社会全体でレベルの低下と共に、リーダー不在の状況が見られます。下の者に疎外感を味わわせないようにするという一方で、能力の高い者がなおざりにされ、伸びるはずの能力が伸ばせずにいるのが現状です。



平等とは、「能力に応じた機会の平等」であるべきです。

本当の意味のエリートは、社会の各分野でのリーダーであり奉仕者であり、確固とした倫理観と社会奉仕精神を兼ね備えている者達を言います。特権階級のことではなく、本来むしろ戦場で先頭に立って闘いに行く存在であり、その者達には常に重大な社会的義務が伴います。能力の高い者に、良い環境と指導を与え、そしてその者は、社会に対する責任を果たす存在となるということです。

私たちは、サッカー界で、真の意味でのエリートとなる人材を育てたいと思っています。それがサッカーの面でも必要である判断力やリーダーシップの面でも大いにプラスになると考えていますし、また、サッカー界あるいはそれを越えた社会で将来的にリーダーとなりうる人材を育成したいと考えています。

リーダー不在、判断力不足は、現代の日本社会の大きな社会問題であるとも言えます。

これに対し、私たちは、サッカー界の中でのアプローチをここに開始し、サッカー界から、スポーツ界から、社会に発信できればと思っています。



世界基準

スポーツ界は世界に眼を向けています。スポーツは、「世界」と闘う機会を持ち、常に「世界」を視野に入れています。

特にサッカーは、世界のスポーツであり、世界の実に多くの国で行われています。日本代表は其中で、世界のトップ10を目指しています。日本を代表して世界と対峙する機会を持ち、「世界に対する日本」を考えます。したがって、ドメスティックな基準、自分の周辺、あるいは日本国内の「勝った」「負けた」ではなく、常に世界基準を視野に入れていかなくてはなりません。国内の日常のレベルで満足しては、世界には決して追いつくことはできません。

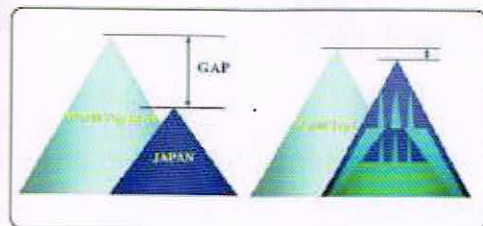
したがって、私たちのエリート教育の目標となる基準は、「世界基準」です。

「世界基準」で日本をリードし、サッカーのみならず、広くスポーツ界、社会全体に発信できる、トータルなリーダーシップをそなえた人材の育成を目指そうとしています。

「ボトムアップ」と「プルアップ」

さまざまな世界でそのレベルを上げるときに「ボトムアップ」と「プルアップ」があります。ボトムアップは平等主義で行う教育のように、全体のレベルを上げることに大いに役立ちます。プルアップはある才能のある子どもたちのレベルを上げることによって、最終的に全体のレベルを引き上げることです。集団のレベルアップには、その両方が必要です。残念ながら、日本には、このプルアップ教育のシステムが欠けています。

このプルアップがなされていれば、仮に後から才能を開花させる子がいたとしても、より高い基準をベースとし目標とすることで、十分にその差は埋めることができると思われます。



日本サッカー協会は世界のトップ10、そして世界のトップを目指しています。これは、後天的な努力のみで達成されるものではありません。先天的な能力のある者に良い環境を与え、本人が努力してはじめて育っていくものなのです。

世界のトップ10を目指すには、今までと同じ方法では間違いなく追いつきません。

「選手は勝手に育たない。タレントが偶然育ってくるのを待つのもいいだろう。しかしそれでは永遠に待ちつづけることになるかもしれない。」

ヨーロッパサッカー連盟技術委員長 アンディ・ロクスブルク



JFAアカデミー堺開校式 『アカデミー生 決意表明』

2012年4月3日

【夢】

私の夢はなでしこジャパンの一員になることです。そして、FIFAランキング1位にし、世界から目標とされるなでしこジャパンにしたいです。私が考えるなでしこジャパンは、諦めない気持ちをもって、パスが正確で、どんなことがあっても前向きにプレーしています。私は、なでしこジャパンの中で信頼される選手になりたいです。

【夢】

私は、サッカーや日常生活で、何も無いところからアイデアをだし、こうやったらいいじゃないかと自分で考え、自分なりに工夫したいです。そしていつも努力することを忘れず、新たな事を造り出すことを怖がらずに実行したいです。

【自由】

私は自由とは自分のやりたいことをすることだと思えます。しかし、自由のなかには責任があります。アカデミーの生活では寮の中で集団生活をします。仲間と生活をする中で責任を持ちながら行動することが大切です。だから責任を果たしたうえで自由を楽しみたいです。

【責任】

私は今までずっと多くの人に支えられてきました。そして今、多くの人に応援してもらっています。だから、まずは応援してくれている人たちの期待にこたえられるように頑張っていきます。また、これからは、今までとは違い、自分のことは自分でしなければなりません。だから、責任をしっかりと果たしていける強い力を持った人を目指します。

【誇り】

私はアカデミーの試験をたくさんお仲間と一緒に受けました。その仲間の中で、私1人が合格しました。地元の仲間は私の事を応援してくれています。そんな仲間のためにも、何事にもチャレンジして一生懸命頑張りたいです。それが今の私が考える誇りです。

【なでしこ】

なでしこは、私の目標です。東日本大震災で多くの人がつらい思いをしました。そんなときあきらめない気持ちで勇気をくれたのがなでしこジャパンでした。私もそういう存在になりたいです。だから私はなでしこになります。



【芯が強い】

私は澤選手みたいに何があってもあきらめることなく、折れない心を持った芯の強い選手になります。そして、試合中負けていても、あきらめることなく、最後の笛がなるまで頑張ります。

【明るい】

私はどんな時でも明るくいれたらいいと思います。理由は二つあります。一つ目は、泣いていたりけんかをしていても何も始まらないと思うからです。二つ目の理由は、自分が笑顔でいると家族の人や仲間が喜んでくれるからです。これからも、明るく笑顔で3年間頑張りたいです。

【感謝】

私はお父さんやお母さんに感謝しています。理由はお父さんやお母さんが一生懸命働いてくれるので、アカデミーで活動することができます。そして将来、なでしこジャパンになり、世界で活躍して成長した姿を見てもらうことが私から伝えられる感謝だと思います。なので、これからも一日一日を大切にしていきます。

【仲間】

私は仲間がいるから今サッカーをすることができていると思います。今までいたチームで、仲間と協力してボールを奪ったり、パスをつないで点をとった時にとても嬉しい気持ちになりました。あと、怪我をした時に仲間がやさしく声をかけてくれたから、今度は私がやさしく声をかけていきたいと思っています。だからこれからも仲間を大切にプレーしたいです。

【世界】

私は世界に羽ばたくのは簡単なことではないと思います。でも今、世界に羽ばたいているなでしこジャパンに私は憧れます。理由は、W杯優勝をきっかけに日本の女子サッカーが世界にみとめられたからです。だから私は、そんななでしこジャパンの一員になって世界に羽ばたけるような選手になりたいです。

【挑戦】

私は新たなことにたくさん挑戦していきたいです。そして新たな発見をたくさんしたいです。挑戦して失敗するのは恥ずかしいことじゃないと思います。「やりたい」と思っているのに挑戦しない方が恥ずかしいことだと思います。たとえ、失敗しても、また挑戦すれば良いと思います。人生は挑戦の繰り返し、だから私はやりたいことへ積極的に挑戦していきたいです。

JFAアカデミー堺

目的

「世界トップ10を目指した個の育成」

「世界基準」をキーワードとし、あくまでも個の育成を目的とします。

ロジック形式による教育により、能力の高い者に良い指導、良い環境を与え、長期的視野に立ち、集中的に育成します。

また、サッカーはもちろん、人間的な面の教育も重視し、社会をリードしていける真の世界基準の人材、常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間の育成を目的とします。

才能を持つだけでは、必ずしも開花するとは限りません。才能を持つ者に良い環境を与え、本人の努力を伴わせることにより、世界に通用する選手を育成します。

「エリート」という名称に関して

日本の中では抵抗感が強く、根付いて来なかった概念であり、誤解を招きやすい面がありますが、本来の意味を重視し、敢えて使用しています。

本来、特権階級を指すものではなく、社会の各分野でのリーダーであり、むしろ先頭に立って闘いに行く存在、社会に対する責任を果たす存在を指すものです。

私たちは、真の意味でのエリートとなる人材、サッカーを越えた社会で将来的にリーダーとなりうる人材を育成したいと考えています。

フィロソフィー

常に（どんなときでも、日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間を育成する。

なでしこ vision

日本女子サッカーの発展のために、そして「JFAの理念、ビジョン、約束」を実現するために、「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、女子サッカーに関わるすべての人々が共有し、遂行する、3つの目標を定める。

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。
2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする
3. 世界基準の「個」を育成する。



指導・サポートに関して

(1) サッカーの面に関して

能力の高い選手に、良い環境で集中的に良い指導を与え、個の能力を高めます。寄宿生活の中で、最高のトレーニング環境を与えます。試合も重要な機会であり、公式試合活動に関しては、アカデミーではなく個々にチームに所属し、週末にはそのチームで試合の経験を積みみます。

(2) サポート、環境面に関して

日本サッカー協会技術委員会、女子委員会、スポーツ医学委員会等と協同し、メディカル、栄養、フィジカル等のサポート体制にて、より良い成長を促していきます。中学生年代は心理的に不安定な時期にあたりますが、適切なサポートや刺激を与えることでドロップアウトを防ぐよう、対応を行います。

(3) 教育面に関して

サッカーばかりではなく、人間的な教育や論理的思考、ロジカルコミュニケーションスキル、外国語等の総合的教育を行い、リーダー教育を重視します。また、代表（リーダー）としての自覚を促す教育も行ないます。

将来、日本をリードする人材となる真の意味での「エリート」を育成します。

方法に関して

(1)生活に関して：ロジング(寄宿制)+週末帰宅

J-GREEN堺内の宿泊施設[DREAM CAMP]に寄宿し、サッカーのトレーニングや総合的教育を行います。
最適な日課の中で、トレーニングや食事、休養、必要な学習を実施することで、効果的な育成を行います。
週末は自宅に帰省します。毎週末無理なく帰宅できる範囲からの子どもを対象としています。

(2)学校に関して

居住地の学区にある公立中学校・堺市立月州中学校に通学し、学校生活を送ります。サッカーのプログラムばかりでなく、中学生にふさわしい学校生活・社会生活を大いに重視しながら、勉強面での指導も十分に行います。

(3)学校以外の教育に関して：JFAプログラム

真のエリートとして社会をリードしうる人材を育成するため、JFAプログラムとして学校のカリキュラムとは別に、寮生活の中でさまざまなプログラムや日常的な働きかけを行います。

特に、ロジカルコミュニケーションスキルの習得、語学、リーダー教育を重視します。また、スポーツ選手としてのパフォーマンスを高め発揮するために送るべき生活態度についても、学習し実践していきます。

(4)チーム活動に関して

JFAアカデミー堺では、個の能力を高めるためのトレーニングを徹底して行いますが、チーム登録をし、そのチームとしての公式試合活動は行いません。(但し、トレーニングの一環として、トレーニングゲームを行うことはあります。)各自が個々にチームに所属し、毎週末(帰宅時)にはそのチームでトレーニングや試合等の活動を行います。

(5)社会生活に関して

親元を離れて寄宿生活を行い、地元(堺市)の公立校に通うという生活を送るに当たり、サッカーの仲間ばかりのサッカーの生活のみにすることは、この年代の子ども達にあるべき姿ではないと考えます。

学校での様々な活動はもちろん、地元(堺市)、堺市教育委員会や一般社団法人大阪府サッカー協会等と協力しながら、地元や社会との交流を重視していきます。



J-GREEN堺内宿泊施設[DREAM CAMP]



堺市立月州中学校

堺市及び大阪府サッカー協会との協力

堺市が「サッカーをはじめとする市民のスポーツ・レクリエーション活動の推進を図り、市民の健康及び体力の増進に資すると共に、日本代表チームの練習誘致や全国大会開催を通じて、スポーツ交流の拠点を堺に形成することで『スポーツタウン堺』を国内外に広く情報発信すること」を目的として、2010年4月に「堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター(愛称：J-GREEN堺)」を開設しました。

また、同施設がスポーツ交流の拠点としての機能を更に強化するため、利便性向上等の観点から、堺市並びに一般社団法人大阪府サッカー協会が連携し、同施設内に於いて宿泊施設の整備を進め、2012年4月に「DREAM CAMP」が開設され、JFAアカデミー堺はその一部を寮として占用利用します。

JFAが「JFA2005年宣言」で示した理念やビジョンのもと、JFAがこれまでJFAアカデミー福島やJFAアカデミー熊本宇城を通じて推し進めている若年層育成のフィロソフィーや方法を発信することや、ハード・ソフトの両面で地域のスポーツの発展・寄与することについて、堺市並びに一般社団法人大阪府サッカー協会がこれらに賛同し、継続的に協力・連携していくことから、JFAアカデミー堺の開校に至りました。

JFAアカデミー堺が、これからの日本を代表するエリートを育成する機関としてだけでなく、更には堺市が策定している「堺市マスタープラン」で示されている「未来を拓く人材をはぐくむ教育環境の充実」を実践する場としても、推進していくことが重要です。



トレーニング環境

ピッチ

J-GREEN堺(堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター)の施設を利用して、活動が行われます。

指導体制

JFAアカデミー堺専任のコーチ・ゴールキーパーコーチが、日常の指導にあたります。また、アスレティックトレーナーや総務・選手管理、スクールアドバイザー等のスタッフも含めて、生活面の指導も行い、ピッチ内・外ともスポーツ選手にふさわしい生活を身につけさせていきます。

また、なでしこジャパン(日本女子代表)及び各年代(U-20・U-17)日本女子代表のコーチングスタッフやナショナルトレセンコーチ[女子担当]、技術委員会委員、女子委員会委員等が全面的に協力し、指導していきます。



寄宿生活に関して

- (1) J-GREEN堺内の宿泊施設[DREAM CAMP]の施設の一部を、JFAアカデミー堺の寮として占用利用します。
- (2) 寮は、共同生活の場として、コミュニケーション、交流、教育、学習、教養を行う場として捉えています。
- (3) 家族(家庭)が特に必要な年代に親元を離れることとなりますが、毎週末帰宅し家庭生活に戻ることにしています。
ウィークデーをはじめとした生活全体の問題に関しては、学校とも連携を図りながらサポートを行います。アカデミースタッフ、学校、地域で協力しながら十分なケアをすると共に、保護者との連絡を密に取り合い協同しながら、選手一人ひとりにアプローチします。
- (4) 病気や怪我等が生じた場合は、アカデミーメディカルスタッフが中心となり、地元医療機関及びスポーツ医学委員会との連携により、十分な医療体制をとります。
- (5) 夜間もアカデミースタッフが寮に同宿し、寄宿生活に関して責任を持って対応します。

寮施設概要

- ・選手居室(4人部屋)・ライブラリー・サロン
- ・食堂・風呂・ランドリー等



トレーニングコンセプト

～世界基準の個の育成～

個性を輝かせるための基本となるテクニックの質を高め、サッカーの原理原則を理解し、習慣化し、仲間との関わりの質を高めていきます。

JFAがこの年代でこそ身につけて欲しいと考えること【動きながらの技術、動きの習慣化、観る、判断する、持久力等】の向上と質の追及を目指します。

JFAアカデミーはチームを強化することが目的ではありませんので、JFAアカデミー堺としての公式試合活動は行いません。(チーム登録も行ないません。但し、トレーニングの一環として、トレーニングゲームは実施します。)



進路について

JFAアカデミー堺は、中学校3年間のプログラムです。3年間で、様々な理由によりアカデミーでの活動の継続が困難になる場合も想定されます。その場合は個々のケースに応じて、選手本人にとって最も良い方法を、本人や家族、所属クラブ、学校等と協議・検討し、判断していきます。

高校への進学、クラブの決定についても、本人や家族、所属クラブ、学校等と協議し、本人にとって最も良い選択を共に行っていきます。



年間費用

費目	納入期	初年度	2年目以降
入校手続き金		150,000円 (分納/12月&3月)	—
活動費 (住居費、食費・水道光熱費等)		月額80,000円	月額80,000円
合計(年間)		1,110,000円	960,000円

サッカーの活動に係る費用(トレーニング用品やシューズは支給。限度数有り)やJFAが行うカリキュラムに係る費用はアカデミーが負担します。

公立中学校に係る経費や帰宅費用(週末や長期休暇)は本人負担となります。

(参考) 中学校 ・年間経費 約140,000円
(文科省「子どもの学習費調査」より)
・制服等 約48,000円

活動費の減免に関して

入学者の家庭の経済的状況や事情の変化により、アカデミーに支払う活動費に対する救済(減免)を行う場合があります。



Q. JFAエリートプログラムはサッカーだけをするところなのですか？

A. いいえ、ちがいます。エリート本来の意味は、先頭に立って社会に貢献する人であると私たちは考えています。もちろんサッカーを通して人々に感動を与え、夢を与えることができる、そういう選手を目指してほしいと思います。ただ、そういう選手になりたいのなら、人間的にも優れたものでなければ社会全体のバックアップは得られません。私たちは学校の授業、勉強はもちろん、その他の社会的活動にも積極的に取り組むよう、指導していきます。

Q. 勉強の方はどんなふうになるのですか？

A. 地元の公立中学校(堺市立月州中学校)に通います。寄宿生活の中でも、学習サポートも取り入れ、勉強はしっかりと行います。教育委員会と中学校の協力によって、より最適な時間帯でトレーニングが送れるよう、部分的に調整が行われています。



Q. 中学校3年間必ず通わなければいけないのですか？

A. JFAアカデミー堺は基本的に3年間を通したプログラムです。ただし、さまざまな事情、状況に応じてその都度、本人や家庭、学校とも十分に話し合いながら本人にとって良い選択をしていきます。

Q. アカデミーを受験したいけれど、クラブのコーチにそれを言えないのですが。

A. さまざまな状況があることはお察しいたしますが、自分の進路を決めるのはその家族と本人の問題であると思います。受験にあたり、クラブの推薦書等は特に必要ありません。良いコーチであれば、本人の意志を尊重しつつ、良いアドバイスをくれるにちがいありません。もしもそのことを相談できないような関係であるとしたら、それはコーチと選手としての良い関係であるとは思えません。何かあればご相談ください。

Q. 日本サッカー協会に登録していたり、トレセンに参加していたりしないと受験できないのですか？

A. そんなことはありません。自分に自信があり、私たちのこのアカデミーの主旨に賛同していただけるのであれば、是非受けてください。

Q. 年間の費用はどれくらいかかりますか？その中には何が含まれるのですか？

A. JFAアカデミー堺のかかる費用は入校手続き金15万円(初年度のみ)と活動費8万円(月々)となります。この経費は主に月々の住居費、食費、水道光熱費です。日常のサッカーの活動に係る費用やJFAカリキュラムに係る費用は全額JFAアカデミーが負担します。

家庭の経済状況や突発的な事象により家庭の経済的事情が変化した場合等を考慮して、活動費に対する救済(減免)を行う場合があります。

Q. どのようなところに住むのですか？

A. 堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター内に開設された「DREAM CAMP」を利用します。

私達は個室は考えていません(選手は4人部屋)。さまざまな環境に耐える力、適応する力、社会性を養うことを目標としています。学校の勉強やサッカーのトレーニングだけが教育とは思っていません。あえてこのロジック制度を始めたのは、共同生活をする中に教育のチャンスがあると思ったからです。

Q. 皆、なでしこジャパン(日本女子代表選手)になれるのですか？

A. 私たちは、質の高いトレーニングと、質の高い指導者をそろえ、そしてトレーニング施設に関しても、日本や世界でも有数の環境をつくっていきたくて考えています。こういう集団の中で、トップトップの日本代表や世界でプレーできるような選手をめざして我々も指導していきます。

全員が将来のなでしこジャパンとしてサッカーで活躍することを望みますが、必ずしも全員がそうなれるとは保証できません。私たちは、ここで学んだ生徒たちが、なでしこジャパンやなでしこリーグで活動が出来る選手になることはもちろんですが、どのような分野でも活躍できるように育成していきたくて考えています。

Q. どんな人が指導してくれるのですか？

A. 育成年代においての経験と実績が豊富な専任コーチです。また、各年代の日本女子代表監督、コーチをはじめとして、経験豊富なナショナルトレセンコーチも指導に関わります。

Q. 日課はどのようになるのですか？

A. 月曜日から金曜日は、月州中学校に通います。下校後、J-GREEN堺のピッチでトレーニングを行います。

学校の勉強ばかりでなく、JFA独自のプログラムもあり、それも日課の中に組み込まれます。サッカー選手としてだけでなく、また世界に通用するリーダーとなる人材を育成するというアカデミーの目的を達成するために行います。

金曜日のトレーニング終了後に(帰省)帰宅します。週末は、所属チームでの活動や家庭での生活を送ります。日曜日の夜に寮に再集合となります。サッカーばかりの生活で良いとは思っていません。勉強や学校でのさまざまな活動、地域での活動等、社会的活動も重要視していきます。



Q. 親元を離れることが心配なのですか？

A. この年代はもちろん、家庭が非常に重要であり、家族との関係は不可欠と考えています。毎週末帰宅しますし、必要に応じてはご家族のほうから訪問していただく機会も設けます。

担当の指導者、スタッフ全員が、全力で子ども達のケアにあたります。常に担当の指導者が、学校や家庭と密に連絡をとっていきます。ご心配であれば、いつでもご相談ください。



なでしこ vision
世界のなでしこになる。

日本女子サッカーの発展のために、
そして「JFA の理念、ビジョン、約束」を実現するために、
「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、
女子サッカーに関わるすべての人々が共有し、遂行する、3つの目標を定める。

1. サッカーを日本女性のメジャースポーツにする。

- ◆ サッカーを気軽に楽しめ、選手・指導者・審判など、生涯かわり続けられる環境をつくる。
- ◆ 少女・女性もするスポーツ、そしてみんなから愛される・応援されるスポーツとして女子サッカーの認知度を上げる。
- ◆ 近い将来、FIFA 女子ワールドカップを日本で開催する。

2015 年、女子のプレーヤーを 300,000 人にする。

2. なでしこジャパンを世界のトップクラスにする。

- ◆ U-20/U-17 ワールドカップに出場。ひとつでも多くの試合を経験し、メダルを目指す。
- ◆ ワールドカップ / オリンピックに出場し、メダルを獲得する。

2015 年、FIFA 女子ワールドカップで優勝する。

3. 世界基準の「個」を育成する。

- ◆ なでしこジャパンにつながる、タレントの発掘・育成システムを充実させる。
- ◆ 女子に携わる指導者のレベルアップを図る。

そして、「なでしこ」らしく…。

「なでしこ」らしい選手 = 日本女子サッカー選手の姿、目指す姿

「なでしこ」らしさとは

ひたむき 芯が強い 明るい 礼儀正しい

「なでしこ」らしい選手になろう！ 「なでしこ」らしい選手を育てよう！



DREAM

夢があるから強くなる

公益財団法人 **日本サッカー協会**

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り JFAハウス

お問い合わせ先

公益財団法人日本サッカー協会 JFAアカデミー事務局
TEL. 03-3830-1890 / FAX. 03-3830-1814
対応時間帯: 祝祭日を除く月曜～金曜 10:00～17:00



公益財団法人 **日本サッカー協会**